

＜資料にかかる補足事項＞

（資料1）令和2年度の病床機能報告の速報値について

- ・有田圏域は今年度病床数の増減や機能転換はなし。

（資料2）令和3年度以降の病床機能報告について

- ・報告様式2の診療実績については、これまでは1か月分の報告としてきたが、令和3年度からは1年分（前年度4月～3月）の月別実績を病棟ごとに報告することとなった。

（資料3）新興感染症と地域医療構想の考え方について

- ・新興感染症は医療計画の1事業として第8次計画（2024～2029年）から記載事項とし、平時より取組を進める。医療構想については、人口減少や高齢化は進み、医療や介護を取り巻く中長期的な見通しは変わっていないため、基本的な枠組み（考え方や必要病床数など）は維持しつつ着実に実施する。
- ・新たな病床機能再編支援制度については、地域医療介護総合確保基金の新たな事業に位置付ける。これまでの施設・設備整備事業とあわせて一体的に支援を行う。

（資料4）外来機能の明確化・連携、かかりつけ医強化について

- ・2022年度から実施予定の外来機能報告については、当面は病院と有床診療所が対象となっている。地域の協議により、外来において医療資源を重点的に活用する医療機関「重点外来基幹病院（仮称）」を明確化する。重点外来基幹病院は紹介を受けた患者への外来を基本とするため、大病院への患者集中を減らし、勤務医の負担軽減、医師の働き方改革にも資することが期待される。

（資料5）地域医療介護総合確保基金について

- ・新たな病床機能再編支援が新区分1-2地域医療構想の達成に向けた病床数又は病床の機能の変更に関する事業として対象事業となる予定。
- ・積立・取崩状況。

（